令和２年度事業評価結果報告書

東京都写真美術館外部評価委員会

令和３年７月１５日

目　　次

１　座長あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１頁

２　総　評　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２頁

３　評点一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４頁

４　評価結果一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５頁

座長あいさつ

このたび、東京都写真美術館外部評価委員会は、令和２年度の東京都写真美術館の運営に対する評価結果を、伊東信一郎館長に提出しました。

東京都写真美術館は、「存在感のある美術館運営」をミッションとしており、そのミッションの具体的な事業運営項目に沿って、実績を 5 段階により評価しました。

評価にあたり、令和 2 年度はコロナ禍の中で、美術館が鑑賞機会を充実させるために様々な取り組みを行った点に特に着目いたしました。

「作品収集、作品管理、調査研究」では、館の作品収集の基本方針に基づき、収集が、的確・計画的に行われていること、「教育普及」では、接触を控えるため対話型のプログラムの実施が困難な中、オンラインによるプログラムを開発したことは、将来につながる成果といえます。「広報・情報発信」では、報道機関との地道な連携や SNS の効果的な活用などに着目しました。また、「展覧会」では、臨時休館に伴い、展覧会の中止や延期を余儀なくされながらも、新たな日常に対応して来館者の安全を十分に考慮しながら、質の高い展覧会を開催しました。さらに、会場風景、作家インタビュー、ギャラリートークなど展覧会関連のオンラインプログラムを配信するなど、新規の来館者につなげる取組を積極的に行った点も高く評価されます。

今後も東京都写真美術館が、世界に向けて優れた写真・映像文化を発信するとともに、地域の「顔」としての美術館となるよう大きな期待を寄せているところです。

当委員会では、今回の評価が東京都写真美術館の事業運営の改善、発展の一助となるよう各委員から寄せられた提言、課題等に着実、迅速に取り組まれるよう望むものです。

令和３年７月１５日

東京都写真美術館外部評価委員会

座長　　柏　木　　博

【総評】

令和２年度の美術館運営について、「優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集」では、『収集の基本方針』と『写真作品収集の指針』に基づき、系統的かつ計画的に歴史的にも貴重な作品を含め、日本を代表し世界にも評価の高い作家のものを丁寧にセレクトして収集している。

「的確な作品管理」では、文化財保存修復学会での研究発表で新たな分野を開拓するとともに、文化財レスキューに携わるなど、写真保存についての日本におけるセンターとして意義のある役割を果たしている。

「調査・研究」では、学芸員による図録や研究紀要への寄稿、学会、研究会における発表や論文執筆など多くの実績をあげている。

「展覧会」では、コロナ禍においても重点収集作家や初期写真など、調査研究に基づく質の高い展覧会を開催するとともに、鑑賞機会を充実させるため、展覧会関連動画の配信など、新たな日常に対応したコンテンツを発信した。芸術選奨文部科学大臣賞新人賞をはじめ、本館の展覧会を契機とする作家の受賞が４件続いた。

第 13 回を迎えた「恵比寿映像祭」では、緊急事態宣言下により規模を縮小しての開催ではあったが、目的を明確にした戦略的なプログラムを展開するなど、安定した集客となった。トークイベントやシンポジウムをネットでライブ配信したことで、国内外のフェスティバルや機関との連携が促進された。新進の若手作家の発掘や地域社会とのつながりが一層強まった。

「普及教育活動」では、感染防止対策のため、従来は対面で行っていた教育プログラムの内容を改編してオンラインで実施し、この先コロナ収束後も、様々な事情で来館できない客向けに活用できるプログラムが構築された。

「図書・情報の収集と公開」では、定員制による事前予約をはじめ、各種の感染防止対策を早期に対応し、図書室を安全に運営することができた。収蔵品に関するデータや画像データについて、オンラインでの公開をさらに進めていく必要がある。

「広報・宣伝」では、ＳＮＳによるターゲティング広告が効果的に行われた。広報誌の定期的刊行、プレスリリース、チラシ配布・ポスターの掲示等の発信を行っている。

「来館者サービス」では、ミュージアムショップによるオリジナル・グッズの開発など、来館者の興味や社会的な流れを意識した企画を行っている。来館者の意見を受け止め、常に改善を図っている。

「企業・団体等の参加促進」では、支援会員制度の運営は、コロナ禍による

各企業業績が落ち込む中、会員数の減少がみられるなど厳しい状況ではあるが、自主財源確保のため、助成、協賛、協力などを積極的に働きかけている。

「ボランティアの参画推進」では、コロナ禍により活動自体は休止せざるを得なかったが、オンライン研修会を多く開催し、ボランティアのスキル向上に努めた運営は評価できる。

「地域との連携強化」では、恵比寿映像祭において近隣のギャラリー・文化施設と連携した特別プログラムや展覧会が開催されるなどの取り組みを行った。

「インフラの改善」では、職員、スタッフ、来館者に対して感染防止対策が徹底され、館内における感染者の発生を防止した。今年度から新たに「展覧会ごとの避難訓練」を実施するなど、困難な状況下での危機管理に努めている。

なお、令和 2 年度の定量目標については、年間観覧者数が定量目標の３８万人に対して、15 万８千人の実績に留まったが、感染防止の観点から、２か月の休館と入場制限等を実施しての運営であったことが大きく影響している。このため、評価については、「年間目標値の達成」ではなく、コロナ禍における「来館者数と集客の取組」という観点で行った点を付記する。

令和2年度事業　評点表

評　価　項　目		評点
1 作品収集・保存事業の評価　＜過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館＞		**5**
(1)	優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集	5
(2)	的確な作品管理	5
(3)	写真・映像に関する幅広い調査・研究	5
2 事業展開の評価　＜質の高い写真・映像文化と出会う美術館＞		**5**
(1)	来館者数の目標達成と集客増	5
(2)	質的な満足を得られる展覧会の提供	5
(3)	恵比寿映像祭	5
(4)	良質な映画の誘致と上映	5
3 教育・普及事業の評価　＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞		**5**
(1)	対象者に応じた多様なプログラムの提供	5
(2)	図書・情報の収集と公開の促進	5
4 広報事業・情報発信の評価　＜写真・映像文化の拠点として貢献する美術館＞		**5**
(1)	効果的な広報・宣伝	5
(2)	インターネット等を用いた情報発信の推進	5
5 来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携の評価　＜開かれた美術館＞		**5**
(1)	良質なサービスの企画、提供	5
(2)	企業・団体の参加促進	4
(3)	ボランティアの参画推進	5
(4)	地域との連携強化	5
6 インフラの改善　＜ミッション達成のための必要な基盤の整備＞		**5**

※評点区分：【高】5　【やや高】4　【中】3　【やや低】2　【低】1

令和２年度事業評価結果一覧

１　作品収集・保存事業の評価　【評点５】

＜過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館＞

（１）優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集　【評点５】

≪評価の理由≫
●作品収集の基本方針に基づき、新進作家から歴史的にも貴重な作品まで、質の高い作品を厳選し、効果的に収集されている。
●収集の指針にしたがって第三期重点作家、および新進作家企画展により中堅、若手作家の作品を計画的に収集している。
●主に展覧会と連動する形で、規定の方針に沿って着実に収集を継続していると認められる。

≪指摘された課題・提言等≫
●継続して質の高い作品の収集ができていると思うが、どこかの段階で、これ以降の世代に顕著なデジタル・ベースの作家の作品に対する収集方針を策定する必要があるのかと思う。

（２）的確な作品管理　【評点５】

≪評価の理由≫
●欧米などの先行事例をも参照しつつ、独自に温度・湿度・照度・防塵の影響を調査研究し、管理を整備している。また、劣化の可能性にある作品を計画的修復している。収蔵作品を体系的に整備している。
●前年度から引き続き、ゲルの特性を生かしたクリーニングの研究をさらに深め、学会で発表された。
●写真保存の教育普及活動、被災した写真作品レスキューに取り組み、独自の技術や研究成果の社会還元を図っている。

≪指摘された課題・提言等≫
●写真保存の技術に関する教育の取り組みは評価されるが、それとは別に、今後散逸、紛失が進むと思われるフィルム資料の保存、継承を推進するための「啓発」にも取り組んでいただけたらと思う。

（３）写真・映像に関する幅広い調査・研究　　【評点５】

≪評価の理由≫

●図録の論考は充実した内容で作家と作品をより深く知るための助けとなる。特に長期にわたって継続されている初期写真の展示については、調査研究の成果が生かされ資料的価値も高い。また、多くの学芸員が寄稿、講演会などを通じて積極的に研究成果を発表している。

●各学芸員が展覧会図録への執筆を中心に研究発表を継続的に行ってきていることが分かる。

●学会などでの発表、論文、寄稿などによって研究の成果を還元している。他館、大学など研究機関との連携による調査研究をおこなっている。また、大学でのレクチャーなどで研究成果を還元している。

≪指摘された課題・提言等≫

●評価項目に掲げられている、学会、研究会での口頭発表と論文執筆、また他館・大学等との連携については、依然として改善の余地がある。

●毎回、繰り返しになるが、メディアにおける先導的なかたちで取り上げられることの多かった過去のスタッフの露出と比較して物足りなく感じる。ただ、否定的な意味でというよりは、常に過去に実現できていたものを到達目標として、常に参照し、さらなる努力の糧としていただけたらと考える。

２　事業展開の評価　【評点５】

＜質の高い写真・映像文化と出会う美術館＞

（１）来館者数と集客の取組　【評点５】

≪評価の理由≫

●コロナ禍という状況下で、すべてが試行錯誤だったはずなので、大禍なく終えることができたのは何よりも関係者の努力によるものだと考える。

●コロナによる外出自粛と休館があり、展覧会は中止や延期を余儀なくされ、非常に大きな影響を受けた。

●集客が減ったことはまったく外的な要因によるもので致し方ないことであったと考える。

●集客が伸びない中でも、オンラインによるギャラリートークを配信するなどして、制約が多い中で懸命な工夫が見られた。

●美術館にとって逆風が吹くこのような状況下でよく検討したと考える。

●コロナ禍により展覧会自体の休止や中止が相次ぐ逆境のなか、オンラインで多様かつ数多くのプログラムを編成してアップロードするなど、擬似的な形ではあれ、新たな来観者を獲得しようとする取り組みに懸命であったことが理解できる。

●コロナの影響による会期や内容の変更に柔軟に対応し、鑑賞の際の安全を担保しながら、独自企画で 14 本もの内容の濃い展覧会を開催したことを、特筆をしたい。

≪指摘された課題・提言等≫

●一方で、国内外の美術館の動向を常に参照し、対応を常に更新する努力も必要だと思う。

（２）質的な満足を得られる展覧会の提供　　【評点５】

≪評価の理由≫

●著名な写真家から新進作家まで年間を通じて多様な作品展示を見ることができた。これは年々充実しているコレクションを背景に多角的に研究した成果であると思う。

●毎年恒例の初期写真の展示も学術的価値の高い資料の実物が見られる貴重な機会であり、長年にわたって継続して見ていくことによって写真史への興味も深まる。図録の資料的価値も高い。

●「石元泰博写真展」は他館と積極的な共同による作家の全貌がわかる大いに見応えのある展示だった。都内の二つの美術館の作品の振り分けも適切だった。

●「生誕 100 年 石元泰博写真展 伝統と近代」は他の美術館、ギャラリー２館と共同で行った意欲的な試みで、日頃から地道に行われている研究、収集が結実した存在感ある展示だった。

●「エキソニモ　アン・デッド・リンク」は、ネット空間の会場とリアルな展示が連動し、新感覚の鑑賞体験が提示された。

●エキソニモの芸術選奨文部科学大臣賞新人賞をはじめ、森山大道、石根愛、瀬戸正人と、本館の展覧会による受賞が続いた。

●当館での展示を契機として受賞した作家が多数おり、これは展示企画スタッフの見識の高さと展覧会を組み立てる手腕が結実したものだと思う。

≪指摘された課題・提言等≫

●公的な展覧会レビューで厳しい見解が示される機会は稀であり、批評の機会も極めて限定的であるため、展覧会の質的評価については、複数のチャンネルを用いて、率直な批評を展覧会の活動に活かすすべを見出すべきである。

●通常の場合以上に、展示後の情報発信についても取り組んでいく必要があるかと思われます。

（３）恵比寿映像祭　　【評点５】

≪評価の理由≫
●写真美術館にとって毎年冬の恒例行事となっている。
●普段あまり見る機会がない映像作品を一堂に見ることができる貴重な機会となっており、そのことが安定した集客数につながっていると思う。
●作品の上映のみならず関連したトークセッション、シンポジウムも充実している。
●国内外のフェスティバルや機関と連携し、複数のリンク・プログラムを活用した結果、多数のプログラムが満員を記録した。
●トークイベントやシンポジウムをネットでライブ配信したことで、海外組織とのネットワーク形成がさらに推進された。
●目的を明確にし、戦略的なプログラムを展開している。また、他の類似した催しものとは差別化を図っている。新進の若手作家を発掘し、積極的に紹介している。地域社会とのつながりを重視し、面的に拡大している。国内外にこの事業をアピールしている。
≪指摘された課題・提言等≫
●イベントなどを中心にオンラインをより多く併用して、映像祭全体の構成を再編した印象があり、過渡期に差し掛かっているのではないか。
●物理的な会場での映像インスタレーションの意味がよりいっそう問われたが、そこに最適解を見いだしているとは思えなかった。
●従来、配布されていた図録またはプログラムが物理的になくなったのも残念なことである。
●テーマに関しては、現在過渡期にあるのかと思うが、もう少し思い切った絞り込みをしてもよいのかなと感じた。

（４）良質な映画の誘致と上映　　【評点５】

≪評価の理由≫
●「アート&ヒューマン」というテーマ通り、写真家のドキュメンタリーから音楽コンサート、アニメーションまで、多彩なプログラムが上映されている。一般的な商業館では見られない作品も多い。
●商業ベースの映画館では見ることのできない貴重な作品を上映している。
●商業的には上映が難しいが、芸術性が高い映像作品を鑑賞するための貴重な場としての役割が果たされている。
●概ね東京都写真美術館で上映するのにふさわしい諸作が誘致されている。

≪指摘された課題・提言等≫
●毎回の指摘になるが「アート＆ヒューマン」というテーマ設定が曖昧すぎて、印象として特定の方針がないままの上映が続いていると感じてしまう。ちょっとした枠組みを提示するだけで印象は大きく異なる。更なる工夫を期待する。

３　教育・普及事業の評価　【評点５】

＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞

（１）対象者に応じて多様なプログラムの提供　【評点５】

≪評価の理由≫
●スクールプログラムはコロナ禍が続く中、オンライン、または学校まで出向いての出前授業を行っている。
●ワークショップもオンライン開催や「おうちでワークショップ」などを実施している。共に非常に厳しい状況が続く中での、なんとか活動を絶やさないためのスタッフの懸命な努力と工夫が感じられる。
●新型コロナ感染対策のため、従来は対面で行っていた教育プログラムの内容を改編してオンラインで実施した。プログラムの実施数は減少したものの、コロナ収束後も、様々な事情で来館できない受講希望者向けのプログラムとして活用できるフォーマットが構築された。

≪指摘された課題・提言等≫
●他の教育機関同様、対話型のプログラムができない困難な状況下、オンライン型のレクチャーを導入するなど一定の取り組みを行なっているが、更なる工夫を期待する。これも他の教育機関にも共通している問題だが、対話型のイヴェントの代替ではなく、最初からオンラインベースで企画されたものなどについても、模索してもらいたいと思う。
●ワークショップは比較的初心者や一般向けのものが多いと感じるが、それは写真ファンの裾野を広げるには役立つが、もっと上級者や専門家に向けた高度な内容のワークショップを企画してもいいと思う。

（２）図書・情報の収集と公開の促進　【評点５】

≪評価の理由≫
●当館の図書館は専門書の充実で総合的にみて、写真関連では日本一のものである。研究者、学生、写真ファンの人々にとって欠くべからざるものであるが、コロナ禍においても人数や時間を区切って開館への努力を継続している。
●コロナ禍ということもあり図書館など、情報サービスの施設がこれまでになく注目を集めた。
●約３ヶ月の休館後、事前予約をはじめ各種の感染症予防対策により、安全に運営された。

≪指摘された課題・提言等≫
●より高額な研究用基礎資料の収集や、図書資料自体に焦点を当てた紹介あるいは展示などの普及的な活動がもっとあってもよい。
●例年指摘していることだが、所蔵品に関する資料や画像データについて、オンラインでの公開をより積極的に具体化させてほしい。

４　広報事業・情報発信の評価　【評点５】

＜写真・映像文化の拠点として貢献する美術館＞

（１）効果的な広報・宣伝　【評点５】

≪評価の理由≫
●展示のたびに雑誌、新聞を中心に多くのメディアに取り上げられている。
●各メディアを熟知し、個別に柔軟できめ細かい対応がされている。
●広報誌「eyes」も展示の見どころ、魅力をコンパクトに紹介しており、展示を見る前、後、どちらに読んでも興味深い。
●姉妹誌「nya-eyes」も普段あまり知ることができない美術館を支える裏側の事情がわかり、楽しく読むことができる。
●英語、中国語、韓国語のパンフレットを作成、配架された。

≪指摘された課題・提言等≫
●インターネット以外の物理的な広報・宣伝について、ややパターン化しているようにみえる。美術館周辺のサインなどを含めて、ガーデンプレイス全体がリニューアルへ向かう中で、よりいっそう効果的な方法を模索していく必要がある。
●SNS によるターゲティング広告が戦略的に行われた。効果を精査し、今後の方針を柔軟に立ててほしい。

（２）インターネット等を用いた情報発信の推進　【評点５】

≪評価の理由≫
●展示風景だけではなく、制作風景、作家インタビュー、識者の対談、ギャラリートークなどの動画が、10 展示会から 37 本オンラインで配信され、自宅にいながら展示を楽しみ、多角的な視点で捉えることができた。
●視聴数が伸びない動画もあるが、いつでもアクセス可能なネット空間に、信頼のおけるコンテンツがあることに大きな意味がある。将来にわたる視聴者たちに届き続けることを念頭に、引き続き地道に取り組んでほしい。
●今回のコロナ禍で美術館は非常に厳しい状況に置かれたが、オンラインの活用がより広まったことは良かったことだと思う。休館中も作家のギャラリートーク、展示会場の動画、ユーチューブでの動画企画と様々なコンテンツを用意して常に発信し続けたことは素晴らしい。
●公式ホームページが改良された。トップページに新しく配置された動画によって、当館の規模と存在感が一目で伝わるようになった。

≪指摘された課題・提言等≫
●ホームページは見やすくなり改善されたが、稼働していないコンテンツも散見され、必要なコンテンツとそうでないものとを見極めて整理していくべきである。
●ツイッターのフォロワー数は依然として低い水準に留まっており、目標値を設定するなどして、増やす努力が求められる。

５　来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携の評価

＜開かれた美術館＞　【評点５】

（１）良質なサービスの企画・提供　【評点５】

≪評価の理由≫
●来館者の興味、社会的な流れを意識し先取りした企画を行っている。来館者の意見を受けとり、常に改善を図っている。
●ミュージアムショップが充実している。また、カフェが明るく入りやすい。
●ミュージアムショップによる展覧会に合わせたオリジナル・グッズが開発されている。
●感染症対策がすべてに優先される現況においては、低評価とすべき要素はあまりない。

≪指摘された課題・提言等≫
●サービス向上は年々整備されてきていると思うが、週末の開館時間は夏の間だけでも、もう少し遅くまでやっていてもいいようにも思う。
●カフェの業者も交替されると仄聞するがコロナ後を見据えて、サービスの再考がいまから求められよう。

（２）企業・団体等の参加促進　【評点４】

≪評価の理由≫
●後援・助成・協賛などを積極的に働きかけている。支援会員企業・団体は２３０法人となっている。
●支援会員数、収入共が減少しているが、これは昨今のコロナ禍において各企業も業績悪化していることを考えるとやむを得ないところと理解する。
●コロナ禍による企業業績の落ち込み、また内覧会や企業交流会の開催中止など厳しい状況が続き、支援会費がわずかながら予算に届かなかった。いまだパンデミックの出口が見えない現状に鑑み、退会抑制と新規会員獲得に一層努めてほしい。
●自主財源比率が向上しているのは良いデータだと思います。

≪指摘された課題・提言等≫
●支援会員数、収入共にわずかに減少しているが、これは経済状況との関連もあるのでやむを得ない部分もあるかと思う。
●支援会員制度はうまく機能してきたと思われるが、コロナ禍という状況も影響しているのかもしれないが、会員数、収入の落ち込みが気になる。

（３）ボランティアの参画推進　　【評点５】

≪評価の理由≫
●コロナ禍で従来のサポート活動ができなかったが、今後の活動の充実を図るため、オンライン研修が活発に行われ、連絡会、研修会ともに、参加者が増加し、スキル向上が図られた。
●ボランティアにとっては活動がほとんどできず不本意な一年となった。しかし、その状況にあってもオンラインでの研修会をたびたび開催し、ボランティアのモチベーション維持に努めたことはとても良かったと思う。
●ボランティアの活動範囲をさらに広げることが今後求められると思うが、研修会もその動きに合わせ、鑑賞プログラムやバリアフリーなどを取り上げているのも時流にあった適切な対応だと思う。

≪指摘された課題・提言等≫
●機会拡充のための研修の実施は、さらに充実を図ってもらいたい。
●ボランティアの担当できる仕事について、根本的に見直す機会をつくってもらいたい。

（４）地域との連携強化　　【評点５】

≪評価の理由≫
●近隣のギャラリー・文化施設との連携で恵比寿映像祭のテーマに合わせた特別プログラムや展覧会が開催された。
●写真美術館の周辺、恵比寿、渋谷、原宿のエリアには、美術館やコンサートホールなど文化施設が多くあり、それらと連携・協働していけるように、「あらかるちゃー」活動を積極的に展開している。
●恵比寿ガーデンプレイスのオフィスワーカーへの観覧割引サービス、TOP チケット保持者へのガーデンプレイス内店舗のサービスが提供された。

≪指摘された課題・提言等≫
●恵比寿ガーデンプレイスもリニューアルを進めており、今後周辺の環境が多少変わることも考えられる。恵比寿駅方面からの動線やサインについては以前から指摘されていたが、環境の変化に応じて適宜改善していってほしい。
●再開発により、渋谷駅周辺がドラスティックに変貌している現状に鑑み、地域連携のあり方もいっそう熟慮をもって戦略的に再考すべき段階にある。従来の枠組みにとらわれない活動も必要ではないか。
●割引制度によるリピート来館の効果検証が欲しい。

６．インフラの改善　　【評点５】

＜ミッション達成のための必要な基盤の整備＞

≪評価の理由≫

●職員、スタッフ、来館者に対して各種の新型コロナ感染防止対策が徹底され、館内における感染者の発生がなかった。

●コロナ禍で入り口での検温などのチェックは日常の風景となった。来館者にとっても方々で直面する慣れた行為のひとつになりつつあるが、とはいえ多少の忍耐や不快を伴うことに変わりはない。その点では当館の検温などの一連のチェックはスムースでスタッフの対応もお客への配慮が感じられる好ましいものである。今後も当分は続くと思われるが、気持ち良いサービスを継続してほしい。

●各展覧会の稼働壁の変更によって避難経路も変わるため、今年度から新たに「展覧会毎の避難訓練」が実施され、正確な避難行動が常にアップデートされている。

●危機管理と安全対策がもっとも問われた一年であり、その点への対応に大過なかったことは評価できる。

●多言語対応やバリアフリー化へ向けた施策も実施されていることも評価できる。

●困難な状況下であるからこその、伝達情報の仕分け、視認性などについて、積極的な取り組みができたのではないかと思う。

≪指摘された課題・提言等≫

●コロナ後には館内外のサインや動線などをさらに熟考するなど、インフラ改善に向けた試みが実行されることを期待したい。

資　　料

東京都写真美術館外部評価委員会設置要綱

（設　置）
第１　東京都写真美術館（以下「美術館」という。）の事業実績を客観的に評価し、事業効果を適正に測るとともに、改善事項の検討を進めるため、館長の私的諮問機関として東京都写真美術館外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）
第２　評価委員会は、次の事項について審議し館長に助言を行う。
（１）　美術館が掲げる定性目標、定量目標に基づく美術館事業の外部評価報告書に関すること。
（２）　その他、館長が必要と認めた事項に関すること。

（構　成）
第３　評価委員会は、学識経験等を有する者の中から、館長が依頼する委員６人以内で構成する。

（任　期）
第４　委員の任期は、３年とし、再任を妨げない。

（座長及び副座長）
第５　評価委員会に、座長及び副座長を置く。
２　座長及び副座長は、委員の互選により定める。
３　座長は、委員会を主宰し、会務を総理する。
４　副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときには、その職務を代理する。

（招　集）
第６　評価委員会は、館長が招集する。
２　館長は、必要に応じて、委員以外の関係者の出席を求めることができる。

（会議及び議事）
第７　委員会の開催及び議事は次のとおりとする。
（１）委員会は、原則として、委員の過半数が出席しなければ、会議を開催することができない。
（２）委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
（３）館長は、大規模災害等により委員の出席が困難である場合は、書面により過半数の委員から意見を徴することにより、委員会の開催に代えることができる。

（謝金の支出）
第８　公益財団法人東京都歴史文化財団委員会等謝礼基準に基づき、委員に謝金を支出する。

（庶　務）
第９　評価委員会の庶務は、東京都写真美術館管理課において処理する。

（補　則）
第１０　この要綱に定めるもののほか、評価委員会に必要な事項は、館長が定める。

附則　この要綱は、平成１６年４月１日から施行する。
附則　この要綱は、令和２年４月１日から施行する。

東京都写真美術館外部評価委員会委員名簿　（令和2年4月～）

（敬称略：順不同）

	氏　名	職　業・役　職	備　考
座長	柏木博	武蔵野美術大学名誉教授	美術館・博物館 経営研究者
副座長	杉田敦	女子美術大学芸術学部教授	美術館・博物館 経営研究者
	倉石信乃	明治大学大学院理工学研究科教授	美術館・博物館 経営研究者
	片岡英子	ニューズウィーク日本版副編集長、フォト・ディレクター	マスコミ関係者
	服部一人	日本大学芸術学部写真学科准教授	写真美術館ボランティア